

# 議 事 録

会 議 名	第44回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	令和5年3月15日(水) ※新型コロナウイルス感染症の感染予防等に考慮し書面開催	
出席者	環境審議会 委員	菅野大造委員, 内藤良弘委員, 郷間康久委員, 青木章彦委員(会長), 横尾昇剛委員, 桂木奈巳委員, 加藤彰委員, 新井有明委員, 近澤幸嗣郎委員, 佐藤俊伸委員, 篠崎務委員 鈴木大介委員, 赤石澤亮委員(副会長), 遠藤廣委員, 木村由美子委員, 佐々木清二委員, 岡元輝委員
公開・非公開	公開	
会議概要	1 議事 ・ 「宇都宮の環境(環境状況報告書 令和4年度版)」について  ⇒ 議事について了承	

発言要旨 ※意見書にて頂いた御意見を掲載しております。

【「宇都宮の環境(環境状況報告書 令和4年度版)」に係る意見について】

委員 (御意見①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終目標である2030年までの目標と共に、ロードマップとの整合性がとれた値(全体と1人当たりを分けて)とし、全体観が分かる状況報告とした方が、市民の方々に對しても分かりやすいと思う。</li> <li>C評価やや遅れの項目についての取組をしっかり行い、計画通りになる様、推進願う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に実行計画を改定する中で、市ロードマップとの整合を図るとともに、市民にとって分かりやすい状況報告となるよう努めてまいります。</li> <li>C評価やや遅れの項目については、取組の強化を図りながら、計画的に推進してまいります。</li> </ul>
委員 (御意見②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野1 地球環境分野について (分野1以外でも共通だが)出前講座への申し込みが少なかったとの事、市民等への周知の方法はどうであったか(知られていない可能性がある)。「分野2 廃棄物」での対策のように、動画配信の他、SNSの活用、学校等への講座の宣伝等もあると良いと思う。(市の他の課からの出前講座の宣伝は学校に回っている。こちらに届いていないだけかもしれないが)</li> <li>分野5 人づくり について 人材育成には時間がかかるので、(可能であれば)今後、指標を作る際に指標を少し下げると感じた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座の実施回数については、新型コロナウイルス感染症の影響により参考値には届かなかった状況にありますが、市民への周知については、市HPや「広報うつのみや」のほか、小・中学校の校長会議などにおいて実施しており、引き続き様々な機会を捉えて周知に努めてまいります。また、環境出前講座は、特に対象者を限定せず実施しているものであるため、今後、大学等でも積極的に取り入れていただけるよう、チラシの送付などにより周知してまいります。</li> <li>人づくり分野については、いただいた御意見を次期計画改定時における指標設定の参考としてまいります。</li> </ul>

<p>(御意見③) 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別紙1の4ページ以降, 別冊10ページ以降のR1～R3, R1～R7が何を指しているのか不明。(他の場所等でもいいので各Rの意味を説明すべき。</li> <li>別紙1の4ページ, 別冊10～11ページの2020年度の温室効果ガス排出量の減少(市民及び事業者)はCovid19による市民生活及び経済活動への影響による減少が要因の一因とも考えられるのでその旨を記載すべき。</li> <li>別紙1の4ページの下段記載の「2050年CNへ向けて…」に加えて, 2030年の50%削減目標の実現に向けて具体的に取り組むことを表現する必要があると思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御指摘の内容を踏まえ, 資料中に注釈を加えます。</li> <li>御意見のとおり, 2020年度の温室効果ガス排出量については特に産業部門や民生(業務その他部門)が大きく減少しており, 明確な数値としては把握できないものの新型コロナウイルス感染拡大による経済活動等の停滞が少なからず影響していることが推測されるため, その旨を環境状況報告書(本編・概要版)及び参考資料1(宇都宮市の温室効果ガス排出量について)に追記します。(下記▶のとおり。)</li> <li>御意見の内容を踏まえ, 2050年カーボンニュートラルだけではなく2030年度の削減目標の達成に向け取り組んでいく旨を追記します。(下記▶のとおり。) なお, 今回の環境状況報告書は令和3年3月策定の現行計画(環境基本計画・地球温暖化対策実行計画)に基づく令和3年度の進捗として評価しているところであり, 今後, 令和5年度に実行計画を改定する中で新たに掲げた目標値等との整合を図ってまいります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施策指標「市民一人当たりの温室効果ガス排出量(年)」等の温室効果ガスの排出状況については, A評価となりましたが, <u>新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動等が停滞したことが, 少なからず影響したものと考えられます。</u> 今後は, 2050年カーボンニュートラル及び新たな2030年度の削減目標の達成に向けて, やや遅れとなった基本施策等への対応とあわせ, より一層, 温室効果ガス排出削減の強化を図っていく必要があります。</li> </ul> </li> </ul>
<p>(御意見④) 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ渦の中, 環境対策は予想以上の成果があったのではないかと。</li> <li>それぞれの分野で, やや遅れがあるが, コロナの影響が薄くなれば改善できる3分野のほか, 自動車排ガス対策については電気自動車の普及の後押しを自動車メーカーと連携することでよりスムーズに進められると思う。</li> <li>農地等の多面的機能の維持向上については, 課題が多いと思われる。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御指摘のとおりコロナ渦という状況下において, 経済活動の停滞により温室効果ガス排出量が減少した一方で, 計画通りに進めることができなかった事業もありますが, 今後徐々に日常を取り戻していく中で改善できるよう取り組んでまいります。</li> <li>電気自動車については, メーカー各社において積極的に開発等が進んでいることから, そうした動向を捉えながら, 市民への周知啓発や普及拡大に向けた支援策等に取り組んでまいります。</li> <li>農地等の多面的機能の維持向上については, 高齢化や農家減少などが地域における活動継続の支障となっていることから, 市が主導して, 令和5年度より「活動組織の広域化」を実施し, 事務作業などを一括して行う体制を構築することで, 更なる農地等の多面的機能の維持向上活動の充実を支援してまいります。</li> </ul>
<p>(御意見⑤) 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球環境分野について 1-3-3 気候変動への適応策の推進について, 適応策自体, 市民にとって理解することが難しいことから, 啓発用パネルの他, チラシやDVD等を作成し, 配布・貸出しを行い, 広く周知するなど, 出前講座にこだわらない対応が必要であると思われる。(動画の配信なども有効)</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のようなチラシや動画等も活用しながら, あらゆる機会を捉え, 市民に対する普及啓発・理解促進に取り組んでまいります。</li> </ul>
<p>(御意見⑥) 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車排出ガス対策の充実として, ガス排出量を電気自動車・ガソリン車に分けグラフ化・差別化して, 広報や地域, 学校に対する出前授業などを活用して市民に周知を図り, 更なる削減を図ってはどうか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のようなアイデアも取り入れながら, 様々な機会を捉え, より多くの市民に対する分かりやすい周知・啓発に取り組んでまいります。</li> </ul>

(御意見⑦)  
委員

- ・分野2(2-2-2) 分野1(1-3-3)等, 出前講座についてはコロナ禍が大きく影響している。気候変動は市民にとっても大切な課題。現状と取り組むべき課題について市民が正しく認識することが大切である。私たちの団体でも学ぶ機会を設けるようにしたい。
- ・分野4(4-2-3) 電気自動車については, 市民が十分に情報を得ることが出来ず, 電気自動車に乗りたい思いは持っても乗り換える決断がつかない人が多いように思える。補助金, コスト, 充電等, 市民への情報提供に努めて頂くよう望む。
- ・分野5 人づくりについては環境問題に取り組む団体・人を支援し, 新しく取り組む団体・人を育てることを期待している。

事務局

- ・市民団体や民間企業等とも連携しながら, 引き続き, 気候変動の影響や市民一人ひとりが取り組むべきアクションなどを分かりやすく学べるような環境学習の場と機会の提供に取り組んでまいります。
- ・電気自動車については対象車種が限られていたこと, 車両が高額であること等からこれまで補助件数の伸びが思わしくなかったものの, 今年度は, 軽自動車のEVが発売されたことや国の補助メニューの充実等も影響し, 本市補助件数も増加傾向にあります。引き続き, 自動車販売店とも連携しながら市民への情報提供に努め, 電気自動車の普及促進に取り組んでまいります。
- ・人づくりについては, 環境出前講座の開催や「みやの環境創造提案・実践事業」などを通して, 地域における環境保全活動や次世代を担う人材の育成・活動支援に取り組んでまいります。

(御意見⑧)  
委員

- ・概要版P4「気候変動への適応策の推進」が『やや遅れ』となった要因分析で, 当該テーマに沿った希望がなく実施機会がなかったことが挙げられているが, 当該施策の性質上, 各年で評価していくのが難しいように感じる。今後も続けていく予定なのか。

事務局

- ・適応策の推進については, 市民の理解が不十分であることを課題として捉え, 普及啓発に取り組んでいくうえで, 「出前講座の実施回数」を指標として設定したものであり, 直接の講座実施以外にもチラシや動画, イベントやSNSの活用など理解促進を図る手法はあるものと認識していますが, 計画の評価を実施するうえでの施策指標として, 引き続き進捗管理を行っていきたいと考えています。

#### 【その他の意見について】

(御意見①)  
委員

- ・出前講座関係について, 学校関係, 特に大学への講座も強く希望する。これらについては小中高で学んできているはずだが, 大学生の意識は環境関連には向いていない傾向が強い。知識として知っていても行動に起こせないケースが散見される。学内の教員による講義より, 学外の担当者から伝えていただく方が効果的と感じる。

事務局

- ・上記【「宇都宮の環境(環境状況報告書 令和4年度版)」に係る意見について】の御意見①に対する回答と同様です。